

群 教 七	G02 - 02
	平 16.218 集

調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てる社会科指導の工夫 — 関連図をもとに話し合う交流活動を取り入れて —

長期研修員 長岡 誠

《研究の概要》

本研究は、関連図をもとに話し合う交流活動を取り入れることで、調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てようとしたものである。具体的には、つかむ過程で個の予想を関連図に表し問題を焦点化する。調べる過程では個で調べた事実を関連図に表しグループで話し合う。深める過程ではグループで作成した関連図をもとに全体で話し合うなど、社会的事象の意味や働きについて考えられるように指導の工夫を行った。

【キーワード：社会—小 問題解決学習 交流活動 関連図】

I 主題設定の理由

社会科教育において、生きる力の育成のために、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力、問題を発見し解決する力などを育てることが重視されている。問題解決的な学習や体験的な活動、学び方や調べ方を身に付ける学習を取り入れるなど、社会科の学習指導の改善が図られてきたが、子供たちが考えを深めるまでに至らないという状況も少なくない。平成14年度の教育課程実施状況調査では、国・県ともに「社会的な思考・判断」の通過率が設定通過率を下回っており、調べたことから考える社会科の学習指導の改善が急務となっている。

子供たちは、社会科の学習において、地域へ出かけての見学や調査、本やインターネットによる資料収集など多様な手段を使って調べることが好きである。また、調べたことを表現する方法も多様化してきている。その反面、調べることが目的化し、調べたことを発表するだけで終わってしまい、社会的事象の意味や働きについて考えたりするなど、調べたことから考える力が十分に育っていない。その原因として、問題解決的な学習の過程において、社会的事象の意味や働きについて考える視点を明確に示してこなかったこと、調べたことを比べたり、つなげたりするなど、考える力を育てる学習が不十分であったことなどが考えられる。

調べたことから考える力を育てるには、社会的事象の意味や働きについて考える視点を明確にして追究活動を行い、社会的事象を構成する一つ一つの事実を正確にとらえ、事実と事実を比べてその特色を考えたり、事実と事実をつなげて因果関係について考えたりする場を設定する必要がある。その際、自分の考えをもとに、友達との交流を通して、新たな事実や考えに触れ、自分の考えを吟味・検討していくことが必要となる。そこで、本研究では、問題解決的な学習のそれぞれの過程に、社会的事象の相互のつながりや因果関係をキーワードや線を使って図示した関連図をもとに話し合う交流活動を取り入れて、調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てる社会科指導の工夫について考えてみた。つかむ過程で、予想を関連図に表し、類型化することによって追究の視点を明確にする。調べる過程で、自分で調べたことをもとに関連図を修正し、それをもとにグループで話し合い、社会的事象の意味や働きについて、自分の考えをもつ。深める過程で、クラス全体で関連図をもとに話し合い、自分では気付かなかった社会的事象の意味や働きなど多様な考えに触れ、交流することによって、更に自分の考えを深めていく。

以上のように、問題解決的な学習の過程に、関連図をもとに話し合う交流活動を取り入れることにより、調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てるために、問題解決的な学習の過程に、関連図をもとに話し合う交流活動を取り入れることが有効であることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 つかむ過程において、社会的事象との出会いから生じた気付きや疑問に対する予想を関連図に表し、その予想についてグループで話し合う交流活動を行えば、追究の視点を明確にすることができ、解決に向けての見通しをもつことができるであろう。
- 2 調べる過程において、個人で調べて分かったことを関連図に表し、個人で調べて分かった事実について、グループで話し合う交流活動を行えば、事実と事実のつながりに気付き、調べたことから社会的事象の意味や働きについて、自分の考えをもつことができるであろう。
- 3 深める過程において、グループで作成した関連図をもとに、グループで調べて分かった事実について、クラス全体で話し合う交流活動を行えば、多様な考えに触れることで新たな事実と事実のつながりに気付き、調べたことから社会的事象の意味や働きについて、考える力を育てることができるであろう。

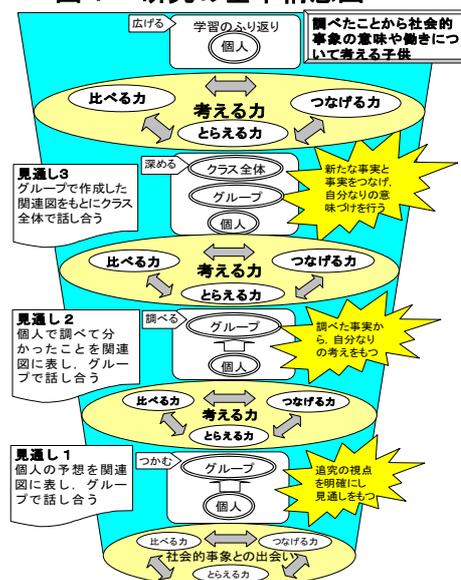
IV 研究内容と方法

1 研究の内容

(1) 調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力とは

社会的事象とは、私たちの生活を取り巻く社会の出来事や事柄のことである。それらの相互の関連や特色、人々の生活に与える影響や役割を社会的事象の意味や働きにとらえた。調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力とは、子供たちが観察・調査したり見学したりすることによってとらえた具体的な事実をもとに、事実と事実を比べたり、つなげたりし、社会的事象相互の関連や特色、人々の生活に与える影響や役割について考える力のことである。考える力の構成要素として、以下の三つの力を考えた。①社会的事象をとらえる力(社会的事象の事実を正確にとらえる力)。②社会的事象を比べる力(社会的事象の共通点や相違点を見つけ、特色を考える力)。③社会的事象をつなげる力(事象と事象の因果関係を考えたり、自分の生活とのかかわりを考えたり判断したりする力)。これらの力は、問題解決的な学習の過程で、個々に独立して働くものではなく、組み合わせあって発揮される力である。個別学習やグループ学習、一斉学習の中で、これらの力を繰り返し使って追究活動を行うことにより、社会的事象の意味や働きについて、更に深まった見方や考え方が育っていく。こうした学習を繰り返すことにより、調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てることが可能になると考える(図1)。

図1 研究の基本構想図



(2) 関連図をもとに話し合う交流活動とは

関連図とは、楕円の中に社会的事象のキーワードを記入し、線によって結び、社会的事象相互の関連を表したものである。そして、関連図をもとに話し合う交流活動とは、個人やグループで作成した関連図をもとに、グループやクラス全体での話し合いを通して、事実と事実を比べたり、つなげたりすることで、社会的事象の意味や働きについて考えを深めていく活動である。これらの活動を問題解決的な学習の過程の中に取り入れる。つかむ過程では、関連図をもとに各自の予想について話し合う交流活動を行うことにより、社会的事象との出会いから生じた気付きや疑問に対する予想を同じ内容のまとまりごとに分類し、追究の視点を明確にしていく。調べる過程では、調べて分かったことを関連図に表し、個人で調べた事実について、グループで話し合う交流活動を行うことにより、事実と事実のつながりから社会的事象の意味や働きについて、自分の考えをもつ。深める過程では、グループで作成した関連図をもとに、グループで調べた事実について、クラス全体で話し合う交流活動を行うことにより、多様な考えに触れることで新たな事実と事実のつながりに気付き、社会的事象の意味や働きについて、自分なりの意味付けを行い、考えを深めていく。このように、関連図をもとにして、個人、グループと話し合う交流活動を繰り返し行い、最後にクラス全体で交流することで、自分の考えが整理されるとともに、その広がりから、社会的事象の見方や考え方が深まり、調べたことから社会的事象の意味や働きについて考える力を育てることができると考える。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画及び検証計画

対象	高崎市立西小学校5年1組 (34名)	単元名	3 くらしとインターネット
実施期間	平成16年10月20日～11月11日 (8時間)		学習指導要領第5学年(3)ーア
検証項目	検証の観点		検証の方法
見通し1	つかむ過程において、インターネットの利用者の増加を表すグラフから気付いたことや疑問に対する予想を関連図に表し、グループで話し合う交流活動を取り入れたことは、追究の視点を明確にし、解決に向けての見直しをもつのに有効であったか。		・関連図 ・ワークシート ・観察 ・事後調査
見通し2	調べる過程において、インターネットを利用した情報の活用について、調べて分かったことを関連図に表し、グループで話し合う交流活動を取り入れたことは、事実と事実のつながりに気付き、調べたことから、自分の考えをもつのに有効であったか。		・関連図 ・ワークシート ・観察 ・事後調査
見通し3	深める過程において、インターネットを利用した情報の活用について、グループで作成した関連図をもとに、グループで調べた事実について、クラス全体で話し合う交流活動を取り入れたことは、新たな事実と事実のつながりに気付き、調べたことからインターネットが人々の生活や産業に大きな影響を与えているという社会的事象の意味や働きについて考える力を育てる上で有効であったか。		・関連図 ・ワークシート ・観察 ・事後調査

(2) 抽出児童

A	学習に対する興味・関心が高く、調べ学習など意欲的に取り組む。学習問題を意欲的に追究し、調べたことから社会的事象の意味や働きについて、自分なりの考えを導き出すことができる。関連図をもとに友達と交流活動を行うことにより、自他の考えのよさに気付け、社会的事象の意味や働きについて考えを深めることができるようにしたい。
B	調べたことから自分なりの考えを導き出すことなどを苦手としており、調べ学習の段階から支援が必要となる。関連図をもとに何について調べ考えるのかという追究の視点を明確に示して、調べ学習に取り組ませる。また、グループや一斉学習での交流活動を通して、友達との多様な考えに触れることにより、自分の考えを深めることができるようにしたい。

V 研究の展開

1 小単元の考察と目標、評価規準

小単元名	3 「くらしとインターネット」 (学習指導要領第5学年 内容(3)ーア)
小単元の考察	本単元は、学習指導要領の第5学年の内容(3)ーアを受けて設定したものである。情報の有効な活用を学ぶ上で、近年著しい増加を見せているインターネットを中心に単元を構成することにした。インターネットの利用者は、平成15年度末で7730万人に達し、普及率は6割を超え着実に生活の中に浸透してきている。ニュースなどの情報収集、仕事上での活用、電子メールなどの通信手段、インターネットショッピングなど様々な利用用途があげられる。産業界においてもインターネットをはじめとする情報通信ネットワークの活用は着実に進んでおり、コンビニエンスストアのPOSシステムによる販売管理、宅配便における荷物の情報管理、電子商取引など既存の流通販売システムを変え、産業構造も大きく変化してきている。しかしながら、インターネットの匿名性を悪用した犯罪やコンピュータウィルスの問題、個人情報の流出など、一度情報の活用の仕方を誤ると国民の生活や産業に多大な影響を及ぼすものでもある。また、だれでも気軽に発信できるというところから、インターネットのチャットの書き込みなどを巡ってトラブルが起きるなどの課題も指摘されている。児童は、社会科や総合的な学習の時間にインターネットを利用して、調べ学習などを行ってきている。インターネットを利用した情報の収集が便利である反面、自分にとって必要な情報を探し出すことができないといった場面も少なくない。また、身の回りにおいてインターネットを利用した情報のやりとりが、人々の生活や仕事に大きな影響を及ぼしていることなどには気付いていない。様々なメディアを通して多種多様な情報を入手できる世の中において、インターネットを中心とした情報の活用について学ぶことは、これからの情報化社会を生き上で大変意義あるものだと考え、本単元を設定した。

目標	情報と自分たちの生活や産業とのかかわりに関心をもち、自分の家、身近な店や会社、公共施設などでは、インターネットの情報をどのように仕事や生活に生かしているかを見学、調査をしたり、各種の基礎的資料を効果的に活用したりして意欲的に調べ、我が国の通信などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを考える。			
【小単元の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】				
	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
単元 の評価 規準	自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方に関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、国民生活を支えている通信などの産業について関心を深める。	自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方について学習の問題を見いだして、追究、解決し、国民生活に大きな影響を及ぼしている通信などの産業の意味を考え、適切に判断する。	自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方について見学、調査をしたり、各種の基礎的資料を効果的に活用したりするとともに、調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現する。	自分の家、身近な店や会社、公共施設などでは、必要な情報を集め生活や仕事に生かしていることが分かり、我が国の通信などの産業は、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを理解している。
学習 活動に おける 具体 的評価 規準	①自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方に関心をもち、意欲的に調べようとする。 ②情報の有効な活用の仕方について考え、これからの情報と国民生活のかかわりについての関心を深める。	①自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究し、解決している。 ②調べたことをもとに、我が国の通信などの産業が国民の生活に大きな影響を与えていることを考え、適切に判断している。	①自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方について、見学、調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして具体的に調べている。 ②自分の家、身近な店や会社、公共施設などにおける情報の働きや活用の仕方について、調べた過程や結果を友達に分かりやすく表現している。	①自分の家、身近な店や会社、公共施設などでは、必要な情報を集め生活や仕事に生かしていることが分かる。 ②我が国の通信などの産業は、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。

2 指導と評価の計画(※省略、資料編参照)

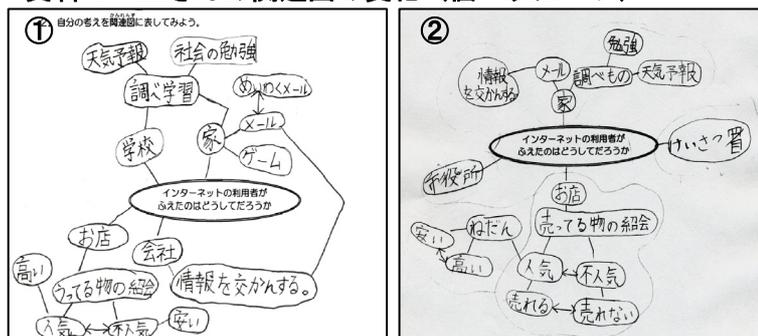
VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程において、インターネットの利用者の増加を表すグラフから気付いたことや疑問に対する予想を関連図に表し、グループで予想について話し合う交流活動を取り入れたことは、追究の視点を明確にし、解決に向けての見通しをもつのに有効であったか

第1時は、社会的事象に関する気付きや疑問に対する予想を個人の関連図に表し、それをもとに子供たちが話し合う交流活動を行った。まず、インターネット利用者の増加・普及率の増加のグラフを提示し、気付いたことや疑問に思ったことを話し合った結果、「インターネットの利用者が増えたのはどうしてだろうか」という課題が設定され、子供たちは個人で予想したことを関連図に記入した。次に、個人で作成した関連図をもとに、各自の予想をグループで話し合いながら関連図を再構成し、内容を分類していくことで、何について調べたらよいのか追究の視点を明確にしていった。そして、各班の追究の視点を発表し、足りないところは補うなどし、家での活用、店での活用、会社での活用、市役所での活用など、グループの追究の視点を設定した。最後に、各グループの発表をもとに、インターネットが私たちの生活や産業とどのようにかかわっているのか話し合い、「インターネットのひみつをさぐろう」という共通課題を教師が提示した。

Aさんは、インターネットの利用者が増えた理由について、「パソコンやけいたい電話を利用する人が増えたから」と予想し、関連図に16個の項目を記入した(資料1-①)。大まかに分類すると、家での活用、学校での活用、店での活用、会社での活用の四つである。家と会社でのメールの活用について、それぞれの項目を線で結び、情報を交換するという意味で関連付けている。グループでの話し合いでは、「家では、ゲームをし

資料1 Aさんの関連図の変化(個→グループ)



渡し、自分が調べて分かったことを赤で付け足した。続いて、情報たんけんカードや関連図の記述をもとに、自分が調べて分かったことをグループで報告し合った。最後にグループで話し合いながら、新たに分かったことや関連付けられる事実を結び付け、第1時にグループで作成した関連図をコピーしたものに赤で付け足し、再構成した。

Aさんは、自分にとって身近な問題である家での活用、医療での活用について追究活動を行った。医療での活用は、クラス全体での追究の視点の発表を受けて新たに設定した項目である。関連図への記入では、自分で追究活動を行った家での活用や医療での活用をはじめ 17 個の項目を記入することができた。それまでに作成したグループの関連図に記入した項目と新たに調べて分かったことを関連付けて記入していることが分かる(資料4)。特に、家での活用を追究する中で、インターネットの便利な点と問題点に興味をもったAさんは、ニュースなどの情報収集やネットショッピングなどの便利さを家での活用に関連付ける反面、メールに関する問題点としてチェーンメールやウィルスなどの

資料4 Aさんの関連図



の問題点を関連付けている。また、調べた事実から、インターネットの便利な点ばかりでなく問題点に気付いたAさんは、「インターネットはいろいろなことができ便利だがウイルスなどの問題点があっっておどろいた」「安心してインターネットを使えるような世界でありたい」と授業後の感想に記述している。グループでの話し合いでは、個人で作成した関連図をもとに、各自が調べたことを持ち寄って、話し合いながらグループの関連図を再構成した。会社での活用では、宅配便に、荷物、行き先、バーコードの項目を関連付けたり、農業における活用などを新たに関連付けたりした。授業後の感想では、「グループの他の人の発表は、知らないことがとてもよくわかった」「グループでまとめた関連図で知らなかったことがよくわかった」と記述している。市役所や警察署での活用について調べるのでできなかったAさんであるが、グループで話し合う交流活動を通して、その活用について知ることができた。これらのことから、個人で作成した関連図をもとに、友達が調べて分かった事実を自分の調査結果と比べながらグループの関連図に表すことにより、事実と事実のつながりを関連付けてとらえることができたと思う。

Bさんは、家での活用、会社での活用、漁業での活用について追究活動を行った。漁業での活用は、クラス全体での追究の視点の発表を受けて新たに設定した項目である。関連図への記入では、漁業での活用をはじめ、9個の項目を記入することができた。記入した項目数は少ないが、漁業や会社での情報活用について、自分で調べて分かったことを関連付けて記入していることが分かる(資料5)。特に漁業での情報活用に興味をもったBさんは、本やインターネットを使って調べた後、更に疑問に思ったことを漁業情報サービスセンターにEメールで問い合わせ、「水温分布図や水揚げ量のほかにどんな情報を送っているか」「どれくらいの人が、漁業情報センターの情報を利用しているのか」「情報を送るときに気をつけていることは何か」などの疑問を解決していった。

資料5 Bさんの関連図



個人で付け足した関連図を見ると、漁業では情報として台風などの天気情報や海水温や漁場などの資料を情報として活用していることを関連図に表し、調べたことに自分なりの考えをもち、

